
魔法少女と孵卵器（インキュベーター）

ダル神

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法少女とインキュベーター孵卵器

【Nコード】

N0086BA

【作者名】

ダル神

【あらすじ】

僕たちインキュベーターの末路を君たちに知ってほしい。

僕たちの報いを

僕たちの終わりへと続く物語を。

僕たちはそれだけの事を君たちにしてきてしまった。

押し付けて、押し殺してしまった。

だからみんな聞いてほしい。

お願いだから聞いてほしい。

罪滅ぼしなんてつもりはこれっぽっちもない。

こんな事で許して貰えるなんて考えていない。

ただ聞いてほしいだけなんだ。

僕たちは最後には結局狂ってしまう。

僕たちの狂ってしまった姿を君たちに見てもらいたい。

見て笑ってほしい。

嘲笑ってほしい。

ざまあみろ、とそんな風に思っ
て貰えたならこれ以上嬉しいことな
んでない。

間違っても情けなんてかけてはいけないよ。

かわいそうだななんて間違っても思っ
てはいけないよ。

僕たちはそんなものを受ける資格
すらないんだからね。

ただ、自業自得だと。

それがお前たちが上位種だとかってに謳ってやってきたことだと、
そう思っしてほしい。

今思えば上位種だなんて片腹痛いよ。滑稽だ。

そう、これは滑稽な物語なんだよ。

僕たちの喜劇のような滑稽な末路を見てほしい。

これはpixivと重複連載です

プロローグ

僕たちインキュベーターの末路を君たちに知ってほしい。

僕たちの報いを

僕たちの終わりへと続く物語を。

僕たちはそれだけの事を君たちにしてきてしまった。

押し付けて、押し殺してしまった。

だからみんな聞いてほしい。

お願いだから聞いてほしい。

罪滅ぼしなんてつもりはこれっぽっちもない。

こんな事で許して貰えるなんて考えていない。

ただ聞いてほしいだけなんだ。

僕たちは最後には結局狂ってしまう。

僕たちの狂ってしまった姿を君たちに見てもらいたい。

見て笑ってほしい。

嘲笑ってほしい。

ざまあみろ、とそんな風に思っただけならこれ以上嬉しいことなんてない。

間違っても情けなんてかけてはいけないよ。

かわいそうだななんて間違っても思っただけはいけないよ。

僕たちはそんなものを受けられる資格すらないんだからね。

ただ、自業自得だと。

それがお前たちが上位種だとかってに謳ってやってきたことだと、そう思っただけよ。

今思えば上位種だなんて片腹痛いよ。滑稽だ。

そう、これは滑稽な物語なんだよ。

僕たちの喜劇のような滑稽な末路を見てほしい。僕たちは一つの大きな存在から生まれる。

元は一つの大きな何かから生まれる。

それは、そうだな。君たちの言葉でいうと神と言った方がわかりやすいのかな？

もちろん君たちの考えている神様と同じなわけではないよ。

ましてや僕たちは神の使い、天使のようなものと言っているわけ

はない。断じてない。

ただ、漠然としない大きな何かから生まれると理解しといてくれたらそれでいいんだよ。

僕たちの存在なんてまあ、得体のしれない宇宙人とでも理解しといてくれたらいいさ。それ以上でも以下でもないさ。

少しややこしくなっちゃったかな？

僕が言いたい事は、一つのものから生まれる僕達は記憶が共有されている、ということさ。今までの僕ではない祖先が何をやってきたのか。何を目的にして、何を任されてきたのか。

勿論生まれてしまえば個人としての自我を持っているから、僕達が常に記憶を共有しているわけではないのだけど。

生まれてきた時にはもう何をするかは、解りきっていて、そこには感情も感動もなかった。

ただ、漠然とした僕達の祖先がやってきた事をするだけなのだから。だから僕達の祖先は切り捨てたのだろう。

いらぬものだど。

そんなものは目的に至るのになんの必要もなく。ただ障害にしかならないど。

こうして僕達インキュベーターはただ無感情に、無感動に目的を遂

行する。

そんな僕達インキュベーターは宇宙の延命を任された。

僕達は戸惑った。いやどうだろう？僕達は感情がないのだから…ただ困った。とそう思ったただけかもしれない。

そんなエネルギーの塊であり、渦であり、海であり、根源であるそれを。

僕達を、僕達の星を、銀河を生み出した宇宙の命を繋ぐなんていったいどれほどのエネルギーが必要なのだろうか。

そんなもの、一つの星で、銀河で生まれるエネルギーではとても追いつかない。一つの星から生まれるエネルギーはその星が生まれる為に必要としたエネルギーに比例しない。エネルギーが変換されるとそこには必ずロスができる。

僕達は研究した。しかしあまりいい結果はなかった。こうしている間にも宇宙のエネルギーは目減りしていく一方だ。

僕達は僕達の捕らわれているエネルギーではダメだと気づかされた。

それでは、もうダメだと。

とてもじゃないけど無理だ。

感情のない僕達にも気苦労はあるのさ。

諦めたくもなるさ。

道も思考も閉ざされた僕達は形を持たない何かならどうだろうかと考えた。

形もエネルギーとも認識されていないものならどうだろうか。

例えば、心だとか感情ならばどうだろうか。

僕達の中で、極少数ではあるけど、心を持っていたものがいた。それは研究においてはお荷物にしかならず、いわゆる精神疾患のようなのだと認識されていた。ただ、そんな疾患を抱えているものでも研究でよい発見をするものも少なくはなかった。そう、彼らには何かエネルギーのようなものを感じていた。

もともと、あらゆるエネルギーを研究し、形あるものは全て研究した僕達は必然的に調べていない、唯一手をつけていないそれにたどり着かされたと言っべきなのかもしれない。

ダメ元で。

でもこれがダメだったら他に手のつけようがなくて。

だから僕達は念入りに調べた。

それはめまぐるしい発見どころではなかった。

僕達は驚愕した。

起こった出来事に目を疑った。だってこの星からみたら、こんな小さな一個体から、一つの感情から発するエネルギーが一つの星を凌

駕するほどのエネルギーが発生されたのだから。

だから僕達は探した。この銀河を、この宇宙を。

僕達の中にいる精神疾患のような稀薄な感情ではない、もっと強い感情をもつ生物を。

そしてたどり着いたのだ。

この星に。

後に地球と呼ばれる星に。

僕達はまたも驚かされた。

この星は僕達の祖先が非効率だと切り捨てた感情を、心を、ある一つの種族全てが持っていたのだ。

後に人間と呼ばれる彼らと僕達インキュベーターの出会いだった。

彼らの中で取り分け強い感情を抱いてるのは、第二次成長期前の少女であった。

さらに感情の中でも効率がいいのは希望から絶望への総転換。この時に生まれエネルギーは個人差はあれど一つの銀河が生まれるほどののだ。

僕達の発明した感情からエネルギーに変換する装置にはある副作用があった。

それは感情を形にしてしまうことであった。

感情を形へ変換するに当たって生まれるエネルギーを僕達は採取する。

僕達はエネルギーがほしいのであって、別に感情を形にしたいなんていう美的感覚はない。そもそも感情がないのだから。

希望という感情を形に変換し生まれる結果はとても美しく優しい力。

しかし絶望という感情を形に変換し生まれる結果はとても惨い、酷い、力。

一見僕達からしたらあまり関係ないものに見えるが、しかし、人間が絶滅してしまつては、この宇宙のエネルギーが目減りし、最終的にはなくなつてしまう。

絶望から生まれるエネルギーは確かに莫大ではあるだけに、その力もまた強大なのだ。

そこで僕達はあるサイクルを考えた。

希望から得られる感情エネルギーをその人間の願いに使おう。その希望はより強固なものとなり、強い力を生み出すだろう。その力で、絶望の力を打ち倒してもらおう。

希望の力は絶望へと変わる日が必ずくるだろう。

ならば、また別の希望に打ち倒してもらおう。

そんなサイクルを僕達は作った。絶望から生まれた力の存在を僕達は魔女とよんだ。

魔女になる少女を僕達は魔法少女とよんだ。

希望が必ず絶望にかわるように

魔法少女もまた魔女になる。

僕達はそんなサイクルをつくりだした。

作ってしまった。

それから、僕たちは多くの少女と契約した。

僕たちと契約したことで人間の文化は急速に成長した。そして、多くの人間が死んだ。

僕たちと契約して幸せになった者なんて一人もいなかった。

みんな初めはいつだって笑顔で最後は必ず泣いていた。

希望の叶ってしまった彼女らは最後は絶望しか残らなかった。

そんな歴史を僕たちは歩み、作ってしまった。

これが僕の継続した記憶。

僕が生まれるに当たって最初からある情報。

僕は自分という存在を理解した。

そう、僕は彼らのいう精神疾患を抱えた出来損ないであるというこ
とだ。

感情をもっとしまっている出来損ないのインキュベーターなのだ。

プロローグ（後書き）

僕の拙い文章を最後まで読んでいただき本当にありがとうございます。前書いたSSでママさんが全く出せなかったので今度こそ彼女を幸せになってもらせるよう全身全霊を以てのぞみます。コメント、感想ももらえたら最高に嬉しいです。評価のほうも楽しみにしております。どうかよろしくお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0086ba/>

魔法少女と孵卵器（インキュベーター）

2011年12月31日03時50分発行